

その二日後に美香は登校しました。10日ぶりのことでした。

美香が学校に来てくれたのは、大きな救いでした。私は、再び気をとり直しました。

シンナーの有害さについては、校医の先生にご指導いただくことにしました。養護の先生とも相談し、お医者さんのご協力を仰ぐことも効果的と考えられたからです。クラスの中で

7月。3人は、クラスの中で浮き上がっていました。無理もないことですが、進路希望調査や模擬テストなどの日程がどんどん進む中で、完全にとり残されていました。

校内スポーツ大会等の学校行事の時に、私は、3人が学級の中で孤立しないように努めたつもりですが、具体的には何もできませんでした。

3人とも進学希望でしたので、私はなるべく将来の話をしたかったのですが、進路の話になると露骨に嫌な顔をし、面接もうまくいかなかったように思います。

心配した夏休みも、表面的には何事もなく過ぎ、2学期を迎えました。

私は、土曜日の放課後、かおりの英語の宿題を見ていました。しばらくして、かおりがそわそわしだしたので理由をきくと、美香と由紀子が待っているといます。私は2人を呼び、私のサンドイッチを4人で分けて食べました。

「せんせ、恋人いる？」由紀子が訊ねました。こういった質問には、3年間でなれっこになった私ですが、この時はなぜか顔

私達は、次のような返書をさしあげました。

が赤くなるのが自分でも分かりました。

「せんせって、意外とかわいいじゃん」美香が言いました。こんな会話があっただけでしょうか、3人が少しづつうちとけてきてくれるような気がしました。

次の土曜日、私は4人分の散らし寿司をつくっていきました。3人は、喜んで食べてくれました。少し残ったのを見て美香が、

「せんせ、これ私にちょうだい。うちの母親にあげるから」と言いました。

それから、2、3日たって、たまたま通りで美香の母親に会ったとき、丁寧にお礼を言われて、あんなお寿司でも少しは役に立ったのかなと思いました。

10月初旬の土曜日、(いつまでもこうしていちゃいけない、彼女らに将来の自覚をさせなくちゃ)と思っていた矢先、由紀子が、「先生、今日は大切な相談にのって下さい」と言いました。

——進路の相談でした。

ふりかえって考えて見ると、私は他の先生方の寛大な大きな手のひらの上で、勝手気ままな指導をしてきたのかも知れません。

厳しくすべき時に厳しく、優しくすべき時に優しく・・・と言われますが、その呼吸というかタイミングが私にはまだよくつかめません。もっと有効な指導方法があったのではないかと思うと、大変悩みます。

ここに、3人に関する資料と、指導の記録の一部を同封します。ご面倒をおかけすると思いますがご指導いただければ幸いです。 ※ 資料及び指導記録は省略